

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 2 部門第 4 区分
 【発行日】令和 3 年 5 月 27 日 (2021.5.27)

【公表番号】特表 2020-528020 (P2020-528020A)
 【公表日】令和 2 年 9 月 17 日 (2020.9.17)
 【年通号数】公開・登録公報 2020-038
 【出願番号】特願 2020-524722 (P2020-524722)
 【国際特許分類】

B 2 8 B 11/24 (2006.01)
B 3 2 B 27/32 (2006.01)
B 3 2 B 27/12 (2006.01)
E 0 4 G 21/02 (2006.01)
C 0 4 B 40/04 (2006.01)

【F I】

B 2 8 B 11/24
 B 3 2 B 27/32 Z
 B 3 2 B 27/12
 E 0 4 G 21/02 1 0 4
 C 0 4 B 40/04

【手続補正書】

【提出日】令和 3 年 4 月 13 日 (2021.4.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

第 1 の外層と、第 2 の外層と、前記第 1 の外層に隣接した第 1 の内層と、前記第 2 の外層に隣接した第 2 の内層と、前記第 1 の内層に隣接した第 3 の内層と、前記第 2 の内層および前記第 3 の内層に隣接した第 4 の内層と、を有するフィルムと、

不織布を含む吸収層と、

前記フィルムの前記第 2 の外層を前記吸収層に接着する接着材料と、を備え、

前記第 2 の外層は、ポリエチレンの極性コポリマーを含み、

前記第 2 の内層は、高密度ポリエチレンを含み、

前記第 3 の内層および前記第 4 の内層は、エチレンポリプロピレンコポリマーを含む、コンクリートを養生するための器具。

【請求項 2】

前記フィルムの前記第 1 の外層は、滑り止め成分を含む、請求項 1 に記載の器具。

【請求項 3】

前記フィルムの前記第 1 の外層は、動摩擦係数および静摩擦係数が各々少なくとも 0.7 である、請求項 2 に記載の器具。

【請求項 4】

前記不織布は、複数の隆起領域および複数の凹領域を含み、前記接着剤は前記フィルムの前記第 2 の外層を前記不織布の前記隆起領域に接着する、請求項 1 に記載の器具。

【請求項 5】

前記養生中のコンクリートの水和に用いられる前記水の pH を調整するための pH 調整成分をさらに含む、請求項 1 に記載の器具。

【請求項 6】

前記 pH 調整成分は、前記フィルムに取り込まれている、請求項 5 に記載の器具。

【請求項 7】

前記 pH 調整成分は、前記吸収層に取り込まれている、請求項 5 に記載の器具。

【請求項 8】

前記 pH 調整成分は、酸化カルシウムである、請求項 5 に記載の器具。

【請求項 9】

前記 pH 調整成分は、前記養生中のコンクリートの水和に用いられる前記水の pH を約 11 ~ 約 13 に調整する、請求項 5 に記載の器具。

【請求項 10】

前記フィルムは、前記吸収層の片面に水蒸気バリアを形成する、請求項 1 に記載の器具。

【請求項 11】

前記フィルムの前記第 2 の内層を介した前記吸収層からの前記器具の前記水蒸気透過率は、 $10 \text{ g} / \text{m}^2 / \text{日}$ 未満である、請求項 10 に記載の器具。

【請求項 12】

前記器具は、貫入抵抗が少なくとも 14 ボンドである、請求項 1 に記載の器具。

【請求項 13】

前記器具は、エルメンドルフ引裂強度が少なくとも 1,000 g である、請求項 1 に記載の器具。

【請求項 14】

前記フィルムの前記第 1 の外層および前記第 2 の外層は、エチレンブチルアクリレートを含む、請求項 1 に記載の器具。

【請求項 15】

フィルムを準備し、
複数の隆起面と複数の凹領域とを有する吸収材を準備し、
接着材料を準備し、
前記フィルムをその結晶軟化温度まで加熱し、
前記接着材料を前記吸収材の前記隆起面に塗布し、
前記フィルムおよび前記吸収材の前記凹領域によって区切られた複数のポケットが形成されるように、前記フィルムを前記吸収材の前記隆起面に接着することを含む、コンクリートを養生するための器具の製造方法。

【請求項 16】

前記フィルム、前記吸収材および前記接着材料は、一緒に積層されている、請求項 15 に記載の方法。

【請求項 17】

前記接着材料はホットメルト接着剤である、請求項 15 に記載の方法。

【請求項 18】

得られる器具は、飽和結合強度が少なくとも約 22 g / インチである、請求項 15 に記載の方法。

【請求項 19】

コンクリートを養生する方法であって、
コンクリートを所望の形状になるように投入してコンクリート部材を形成し、
前記コンクリートがブリード段階に達するまで待ち、
投入されたコンクリートの表面に水和水を接触させ、
前記水和水を接触させた後に、前記コンクリートの前記表面に器具を接触させ、前記器具は、フィルムと、前記フィルムに接着された吸収層と、前記水和水の pH を調整するための pH 調整成分と、を含む、方法。

【請求項 20】

前記 pH 調整成分は、前記フィルムに取り込まれている、請求項 19 に記載の方法。

【請求項 2 1】

前記 pH 調整成分は、前記吸収層に取り込まれている、請求項 1 9 に記載の方法。

【請求項 2 2】

前記 pH 調整成分は、酸化カルシウムである、請求項 1 9 に記載の方法。

【請求項 2 3】

前記 pH 調整成分は、前記水和水の pH を約 1 1 ~ 約 1 3 に調整する、請求項 1 9 に記載の方法。

【請求項 2 4】

少なくとも 7 日間、前記水和水の pH を約 1 1 より高く維持する工程を含む、請求項 2 3 に記載の方法。

【請求項 2 5】

前記フィルムは、前記吸収層の片面に水蒸気バリアを形成する、請求項 1 9 に記載の方法。

【請求項 2 6】

前記フィルムを介した前記吸収層からの前記器具の前記水蒸気透過率は、 $10 \text{ g} / \text{m}^2$ / 日未満である、請求項 2 5 に記載の方法。

【請求項 2 7】

前記フィルムは、滑り止め成分を含む、請求項 1 9 に記載の方法。

【請求項 2 8】

前記器具は、前記コンクリート部材を囲むように構成されている、請求項 1 9 に記載の方法。

【請求項 2 9】

前記器具を前記コンクリート部材に接触させる工程は、前記コンクリート部材を前記器具の中に囲い込み、前記囲い込んだコンクリート部材を、前記コンクリート部材が投入された場所とは異なる場所まで運搬することで、運搬時にも前記コンクリート部材の養生を継続することを含む、請求項 1 9 に記載の方法。

【請求項 3 0】

地面と、前記地面に投入されるコンクリートとの間にバリア層を設けるための器具であって、

第 1 の外層と、第 2 の外層と、前記第 1 の外層に隣接した第 1 の内層と、前記第 2 の外層に隣接した第 2 の内層と、前記第 1 の内層に隣接した第 3 の内層と、前記第 2 の内層および前記第 3 の内層に隣接した第 4 の内層と、を有するフィルムを備え、

前記第 1 の外層および前記第 2 の外層は、直鎖状低密度ポリエチレンを含み、

前記第 1 の内層および前記第 2 の内層は、直鎖状低密度ポリエチレンおよび高密度ポリエチレンを含み、

前記第 3 の内層および前記第 4 の内層は、エチレンポリプロピレンコポリマーを含む、器具。